

1月30日(月)

神様の祝福が溢れでる

聖書朗読 ヨハネ 1:16-18

私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。
ヨハネ 1:16

今回のタイトルの言葉はとても力強いものです。甥の息子であるローガンがザンビアへの伝道旅行の時に言っていたのを聞いたのが最初でした。彼は言語の壁があるにも関わらず、主が祝福してくださり、御言葉が様々な方法で広がっていったことについて書いています。伝道の地でことばが完全に通じ合わなくても、ローガンが神様の愛の種を植えていると心の底から感じられたのです！

旅行を振り返って、ローガンは自分が神様の恵みが溢れる場所に立っていたと心から明確に言うことができました。神様が造られた作品の一部となることの恵みを彼は知っていました。神様がご自身の祝福を注ぐのに、ご自身の民をどのように用いられるかを、彼は理解していました。私は、自分が同じように神様の祝福の溢れた所に立つことがどれほど祝福されることだろうかと考え始めています。私が神様を深く知るといえるのは、つまり、神様の祝福の溢れた中に立っているということです——神様を知ると言うことは、神様が命であり、神様のうちに自由があり、神様は力の源であることを知ることです。あなたはこの深い意味をすべて理解することができるでしょうか？

聖歌 604

祈り 主よ、私が日々受け取っている祝福のすべてを理解し、認識し、あなたに感謝することができますように。私が、確かにあなたの祝福の溢れた中に立っていることを理解できるように助けてください。イエス様の御名により。アーメン。

ユージェニア・カイザー
ヴァージニア州アーリントン

2023年1月30日～2月5日

翻訳 鈴木 慈久

編集 野口恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

1月31日(火)

イエス様と本当に一体となることとは

聖書朗読 ヨハネ 1:19～28

あの方は盛んになり、私は衰えなければなりません。

ヨハネ 3:30

バプテスマのヨハネは、神様のより大きな計画の中での自分の役割を理解し、受け入れていました。救い主の到来を証しすることです。彼はキリストから離れるという思いは一切持っていませんでした。福音書の著者はヨハネが、自分が何者であるかということよりむしろ、自分が何者でないかということの根拠について話したことを記録しています。彼は救い主でもエリヤでも預言者でもありません。彼が権威者たちに答えたとき、彼が話したのは彼自身の言葉ですらありません。それはイザヤの言葉です(23節)。ヨハネはキリストのくつのひもを解く値打ちすらありませんと話しています。ヨハネが自分がなにもものであるかということより、神様と一体であること、自分が神様のより大きい目的の中にいることが大事でした。

教会のメンバーたちが自らの良い行いにおいて教会の中で自分を輝かせるとき、自分たちは目立たないようにひっそりとご奉仕するということは、私たちが生きている時代に反することです。埋もれること、普通でいることは、現代においてはよしとされないのです。私たちは自分たちが忘れられることのないように名を残そうとやっきになっています。私たちは自分だけすばらしい者であることを確立するために努力しています。しかし聖書は私たちが何者であるかについて全く異なる見方をしています。私たちはキリストの中に、そして信仰の交わりの中で自己を確立ということなのです。つまり、自分中心ではなく、神様中心の生活に満足するとき、私たちが何者であるかが明らかになり、確立されます。つまり、私たちが生きることは、主にすべての栄光を帰することなのです。

讃美歌 495

祈り 親愛なる主よ、私たちがあなたとあなたの教会の中に自分自身を見つけることを求めることができるように、私たちをへりくだらせ、力づけてください。イエス様の御名により。アーメン。

デイブ・ブランド
テネシー州 メンフィス

2月1日(水)

イエス様は結婚式に招かれた

聖書朗読 ヨハネ 2:1～11

結婚がすべての人に尊ばれるようにしなさい。

ヘブル 13:4

ある変わった結婚式に参列したことがあります。式の間、結婚がどんなに神聖なものかについての言及もなければ神様に関する言及もなかったのです。イエス様はその結婚式にも、結婚そのものにも招かれていませんでした。なんと悲しいことでしょう！

今日の聖書朗読箇所、イエス様は結婚式に招かれ、そしてご自身の存在によってその結婚式に恵みをお与えになりました。結婚している人たちの多くは「病める時も健やかなる時も、富める時も貧しい時も愛しそして大切にし、その命のある限り互いを守る」と約束し、誓いを立てました。私たちは「神と人との前でこれらの誓いを結ぶ」ために指輪を交換しました。私たちはキリストが教会を愛し、ご自身を教会のために捧げられたのとちょうど同じように、互いを愛し尊重するべきであることを思い出させられます。私たちは結婚が神様ご自身によって制定されたことに気づきます。私たちはイエス様が自分たちの結婚生活の真ん中におられることを願っています。そして、また自分たちの子どもたちもクリスチャンホームを築き、イエス様を中心とする生活を過ごして欲しいと願っています。

讃美歌 285

祈り 親愛なる主よ、あなたご自身が造り祝福された結婚の美しさに感謝します。あなたが私たちの人生の一部となることを望んでおられることに、私たちが気づけますように。御子の存在によって私たちの人生を祝福してください。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

H・グレン・ボイド
アーカンサス州 サージー

2月2日(木)

従う流れ

聖書朗読 ヨハネ 4:1~26

もう私たちは、あなたが話したことによって信じているのではありません。自分で聞いて、この方がほんとうに世の救い主だと知っているのです。 ヨハネ 4:42

この井戸でイエス様に見出された女性は神様の生ける水を頂く流れを表現しています。イエス様が彼女のところに来ます。イエス様は会話を始められます。イエス様は生ける水を差しだします。イエス様は彼女に生ける水を受け取るように話されます。そして、彼女がいままでしてきたことを全て話されるのです。私たちはイエス様が「来なさい」と言うのが大好きです。しかしそれは従うことの半分にすぎません。弟子たちはただ「来なさい」というのを聞いていました。弟子たちは、その招きの後半部分を理解していなかったのです。

イエス様は私たちに来るようにと願うのに加えて、行ってすべての被造物に福音を伝えるように命じてもおられます(マルコ 16:15)。イエス様の招きは私たちだけに対してのものではありません。生ける水は貯めこまれるべきものではありません。私たちはそれをすべての渇いている人に分け与えなければなりません。井戸にいた女性はそれを理解しました。水がめを置き去りにして、彼女は喜びをもって走っていき、そして福音を近所の人たちに伝えました。「来てください」と彼女は言いました。「来て、見てください」と。私たちも行って伝えなければなりません。私たちは「来て、見て、信じてください」と言わなければなりません。私たちはイエス様のところに行きます。罪にけがれて。混乱して。疲れ果てて。イエス様は私たちの渇きをいやしてくださいます。私たちは他の人たちのところに行ってこの知らせを広めましょう。神様のもとに来てください。来て、そして行くのです、それが主に従うことの道筋、流れなのです。

讃美歌 338

祈り お父様、私たちが生ける水を飲み、それを他の人たちに手渡すことができますように。イエス様によって。アーメン。

ガーリー・ホローウェイ
テネシー州 ナシュビル

2月3日(金)

豊かな命

聖書朗読 ヨハネ 5:16~23

わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。

ヨハネ 10:10

自分の人生には意味がないと考えているクリスチャンがいることはとても悲しい現実です。イエス様は私たちに豊かで、満ちていて、意味深いいのちを与えるために来られたのです。ヨハネの福音書5章で、イエス様は「いのち」について話しています。21節でイエス様は、父なる神様はいのちを与え、そして御子もまた「与えたいと思う者にいのちを与えます」と言っています。

いのちは偉大な贈り物です。イエス様のうちに、私たちは霊的な救いを経験します。私たちは「死からいのちに」移っているのです。イエス様が私たちにくださる新しいいのちは「永遠のいのち」です。永遠へと入っていくいのちは偉大な恵みです。

ヨハネの福音書の中で、「永遠のいのち」という言葉は長さよりも質に関するものです。私たちの新しいいのちは祝福に満ちています。山上の垂訓における八福の教え(訳注:「~者は幸いです」という文言が共通する8つの言葉)はすべて「blessed(祝福されている)」という言葉で始まっています。私たちの新しいいのちは豊かで、私たちが求めたり考えたりできるものを凌駕しています。イエス様のうちに、私たちは神様とともに歩み、天国の味見ができるのです。神様の御霊が私たちのうちに住み、「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」を育てます。そのように生きることは喜びに溢れています!

讃美歌 332

祈り 父なる神様、私たちが永遠の死から救い出すために、そして私たちに赦しと、目的と、意味に満ちたいのちを与えるために、あなたの御子であるイエス様を送ってくださったことに感謝します。イエス様の御名によって祈ります。アーメン。

リチャード・N・エディ
オレゴン州 グレシャム

2月4日 (土)

キリストについての信頼できる証言

聖書朗読 ヨハネ 5:41~47

もしあなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたはずです。モーセが書いたのはわたしのことだからです。
ヨハネ 5:46

法廷ではお互いの側がよく自分たちのために証言をする証人を召喚します。証言する前に、彼らはその誠実さを保証するための宣誓をします。そして、弁護士の質疑に応えます。そして、裁判官と陪審員はその証言によって信じるか信じないかを判断します。

イエス様が人々と共に歩いた時、イエス様の教え、人格そして奇跡はイエス様が神様であることを証しました。しかし宗教指導者たちは何年も受け継がれてきたあまりにもたくさんのルールに縛り付けられていたので、イエス様の証言に反抗し、本質のない形だけの宗教を実行する古い伝統にしがみつきました。彼らは聖なる日に「働く」ことになると考えて、イエス様が安息日に男性を癒すように仕向けることさえしました。宗教指導者たちの理解は伝統と、支配と、自分たち自身への愛によって曇っていました。それでイエス様はモーセが証言している聖句を含め改めて教えられました。イエス様が指し示した教えは、宗教指導者たちが従っている律法ではありませんが、そこに愛はありませんでした。律法学者は、何が大切であるかを忘れ、律法を守ることにだけ囚われていました。安息日に人を癒すことは悪いことであり、イエス様を非難しました。

しかし、私たちは違います。イエス様が神様を信じ、人を守るための律法を教えて下さったことを心に留め歩んで行きたいです。イエス様の教えは信頼できるものです。神様に栄光がありますように！ イエス様は私たちの救い主です！

讃美歌 284

祈り 天におられる親愛なるお父様、継続する数えきれない贈り物、特にあなたの愛する御子イエス、私たちの救い主であり主である方の素晴らしい贈り物に感謝します。イエス様の御名により。アーメン。

トラヴィス・アレン
コロラド州 センテニアル

2月5日(日)

生ける神殿

聖書朗読 ヨハネ-7:14~24

あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。
I コリント 3:16

かつてイスラエル人が神殿を建てた時、神殿はイスラエル人の生活の中心にありました。そこで礼拝したり、捧げものを捧げ、すべての祭りをそこで祝ったのです。その神殿で、霊に満たされたシメオンとアンナは、イエス様が救いのために送られた方であると気づきました。ところで、イエス様が12歳のころ、神殿で教師たちの真ん中にすわって、話を聞いたり質問したりしていました。両親はイエス様がいなくなってしまって探していたのでとても心配しました。エルサレムまで戻ってイエス様を見つけられた時そのことを伝えると、イエス様は「どうしてわたしをお捜しになったのですか。わたしが必ず自分の父の家にいることを、ご存じなかったのですか」とお答えになりました。

今日の聖書箇所でも、イエス様が神殿の中に戻って教えられています。ここでイエス様はご自身の権威に疑問を投げかける祭司や律法学者に立ち向かわれています。イエス様のいのちは脅かされますが、イエス様の時はまだ来ていませんでした。イエス様は引き続きご自身の父の家で働かれています。

パウロは、神殿とは聖霊が住まわれる場所であるといいました。イエス様が神殿でどのように時を過ごされたのかを見ることで、今の私たちが自分の身体を聖霊の宮とすること、また生活の中でイエス様が聖霊として私たちに宿って下さっていることに気づき、イエス様がどのように働かれたかを覚えて、私たちも少しでもイエス様に近付けるように歩んでいきたいです。また、イエス様のような生き方を通して、イエス様を讃美できるようにしましょう。主の聖なる麗しさのうちに、主を礼拝するのです。

主の声は、力強く、主の声は、威厳がある。

詩篇 29 : 4

讃美歌 499

祈り 親愛なる主よ、あなたの言葉について深く考えるために、私を忙しくさせすぎないでください。私の神殿を美しい考えと、感謝のうちに終える日々で満たしてください。イエス様の御名によって。アーメン。

ジュエル・クラークストン